



相互扶助による地域づくりシンポジウム

地域コミュニティの形成とまちづくり

～安らぎのある豊かな地域づくり～

平成24年12月2日(日)、地域交流センターにて「相互扶助による地域づくりシンポジウム」を開催いたしました。財団法人地域社会振興財団の交付を受け、長寿社会づくりソフト事業として実施された本シンポジウムでは、少子高齢化、経済不況による離職者の増加、地域の人間関係の希薄化が進む今日、公的な制度だけではなく、地域住民の支え合いをもとに支援の輪を広げていく地域コミュニティをつくることを目的として開催しました。



第1部の「高齢者等日常生活実態調査分析結果報告」では福岡県立大学の山下清香准教授が、平成23年度におこなったアンケート調査をもとに講演をおこないました。外出頻度が低い人、日常生活で介助が必要な人、認知機能の低下を感じている人などは、そうでない人に比べ、転倒の経験割合が高く、転倒による骨折や痛み、自信喪失などによって、要介護状態になったり、寝たきりになることが報告されました。また一人暮らしの高齢者は身体的にも精神的にも、健康度が低い高齢者が多く、支援が必要であることも報告されました。

基調講演では筑紫女学園大学の山崎安則教授に「自立と尊厳を支える地域福祉の実践」と題して講演いただきました。迎える超高齢社会に向けて、地域コミュニティを構築していくことが大事であり、地域コミュニティを作っていくためには、挨拶をはじめとする人間関係づくり、つながりを作っていくことが大切だと話されました。「自分さえよければよい」というだけでは人生は全うできず、地域住民のお互いさまの相互扶助の関係が、安心や安全な地域づくりにつながり、個人の幸せにもつながってくることを話されました。



相互扶助による地域づくりシンポジウム パネルディスカッションの様子